J-STAGE NEWS：J-STAGEニュース No. 19

電子ジャーナルの最新情報をおとどけするJ-STAGE機関紙

ISSN 1346-1990

2009年3月9日発行

独立行政法人
科学技術振興機構

今号の記事：

J-STAGE 利用学協会意見交換会開催　／　WPRIM とのリンクについて
シリーズ学会訪問　～J-STAGE 利用学協会様の声～［日本脳卒中学会］
Journal@rchive 対象候補誌募集について
J-STAGE 登載基準について　／　J-STAGE セミナー開催について

J-STAGE 利用学協会意見交換会開催

＜2/20 東京、2/27 京都＞

J-STAGE 利用学協会を対象に、平成 20 年度 J-STAGE 利用学協会意見交換会を 2 月 20 日東京で、2 月 27 日に京都で開催しました。東京は 60 名、京都には 20 名近くの学会事務局あるいは編集委員の方々にお集まりいただき、活発な議論がなされました。

・J-STAGE／Journal@rchive の状況
・関連機関との連携について
・J-STAGE の利用基準、登載(公開)基準
・今後の開発計画

について JST より報告。J-STAGE 登載(公開)基準に関しては、今後の登載論文の範囲拡張について 4 面で詳細を紹介しています。（意見交換会の内容は HP でも紹介します）

平成 21 年 2 月 20 日
東京ガーデンパレス（御茶ノ水）にて

今回の意見交換会では、JST からの報告の他、利用学協会（水文・水資源学会様）から事例紹介の講演をしていただいた後、分野別のグループディスカッションを実施しました。ディスカッションでは、参加学協会様同士のネットワーク形成を目的として、J-STAGE に関する事項に絞らず、学協会で日常抱えている課題や問題点等についての意見交換や情報交換をしていただく場としました。一つの試みとして実施しましたが、各グループとも情報交換ができ有意義であったとの感想をいただきました。今後もアドバイザー委員のご支援を元に、このような新しい取組みを取り入れていきたいと考えています。

WHO 西太平洋地域医学情報データベースから J-STAGE へのリンクについて

WHO 西太平洋地域医学情報データベース（WPRIM）は、国際保健の立場から構築される医学文献データベースで、WPRIMJ は 2006 年に WPRIM 国内委員会として設立され、日本からの WPRIM への収録雑誌の選択など、種々の活動を行っています。

この度、WPRIM サーバから J-STAGE 本文へのリンクについて WPRIMJ と協議を行い、実施に向け着手する運びとなりました。近く、文書を交わしテストを行う予定です。　これにより、WPRIM に収録された国内学協会誌の書誌情報から J-STAGE 本文へのリンクが可能となります。

〔シリーズ学会訪問〕～J-STAGE 利用学協会様の声～

［日本脳卒中学会］

今号では、比較的最近 J-STAGE に参加された学会に J-STAGE 利用後のご感想等をお聴きしたく、日本脳卒中学会の「脳卒中」誌編集委員長である小林先生を訪問し、お話しを伺いました。小林先生は現在、島根大学理事で医学部付属病院長をなされています。日本脳卒中学会は、単一臓器の致死的疾患としては我が国のナンバー１の国民病である脳卒中を専門的に研究し、撲滅を目指して 1975 年 1 月に設立されました。2003 年には日本医学会に加盟されました。

機関誌「脳卒中」は、2007 年 29 巻 1 号より J-STAGE で無償公開されています。現在、2009 年度の本格稼働を目指して、J-TAGE の投稿審査システムの試行運用を進めています。また、「脳卒中」は平成 20 年度のアーカイブ対象誌に選定され、次年度には創刊号からカレントまで“一気通貫”でオンライン公開される予定です。

◆　◇　◆

ー編集委員長には４年前に就任されたそうですが、「脳卒中」誌についてご紹介ください－

日本で最も多い病気である脳卒中について、学術的な研究だけでなく臨床的な面から治療法の研究や再発予防策、看護士認定教育、ネットワーク作り、地域連携の促進等に貢献すべく研究成果を広く発表することを目指しています。就任当初は年 4 刊の発行でしたが、徐々に投稿数を増やし、現在は年 6 刊の発行とすることができました。

島根大学医学部付属病院長
小林祥泰先生

ーJ-STAGE をご利用いただくこととなったいきさつは何でしょうかー

機関誌を電子ジャーナル化してなんとか無償で公開できないかと検討していましたが、東京で行われたある学会に参加した時、そこで J-STAGE が展示されており話を聞きました。それが J-STAGE とのお付き合いの始まりです。その時は投稿審査システムに興味を持ちました。

ーJ-STAGE で無償公開されて何か変化が起こりましたでしょうかー

編集委員会の中でも電子化に対する理解が深まりました。まだ投稿が増えた等の実感まではありませんが、全文を簡単に見られる点と引用文献リンク機能は非常に良いと思います。また、論文執筆の際の参考文献の参照や引用が楽になったとの会員の声も聞きます。今後、投稿数が増えるのではないかと期待しています。また、アーカイブで創刊号から公開されれば、さらに引用される機会も増えるものと思います。査読の時に関連文献の内容が確認できるのも非常に役に立っています。「脳卒中」誌は、臨床を中心に、クリニカルパスや地域連携パスなどにたずさわる方々に読んで頂くために、今後も無償公開をしていくつもりです。

ー不備な点、改善を要望される点はー

公開系ではテーマでの検索機能がやや弱いと聞きますが、Google Scholar から J-STAGE を検索できるので、特に問題ありません。むしろ、データベースや電子ジャーナルサイトはある程度の規模が必要で、アクセス数や引用頻度を上げるためにももっと参加学会誌を増やすことに注力して欲しい。J-STAGE には網羅性と知名度の向上を望んでいます。

また、J-STAGE 導入時の初歩的なサポートやコンピュータやＰＣに不慣れな初心者へのヘルプデスクを充実させるともっと参加し易くなると思います。

ー最近の学協会をめぐる動向（海外商業出版社の動き）についてはいかがお考えでしょうー

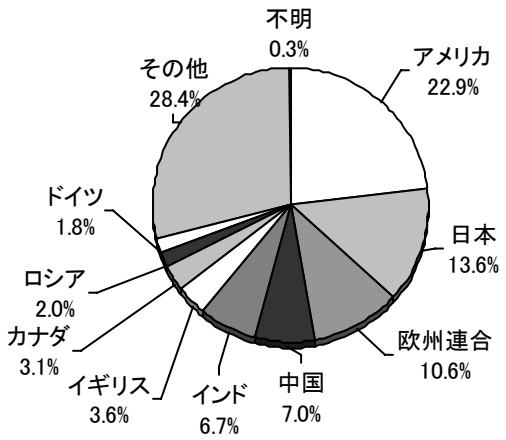
学術情報を特定の出版社が独占的に販売することに脅威を感じています。購読雑誌の高騰問題は大学にとっても大きな問題となってます。日本の学術雑誌は J-STAGE から発信させていくよう、特に医学系学会誌の J-STAGE 登載、無償公開を進めていくべきと考えます。

ーありがとうございました。J-STAGE 参加学協会の増加、ヘルプデスクの充実に向けご期待に添えるよう頑張ってまいります。－

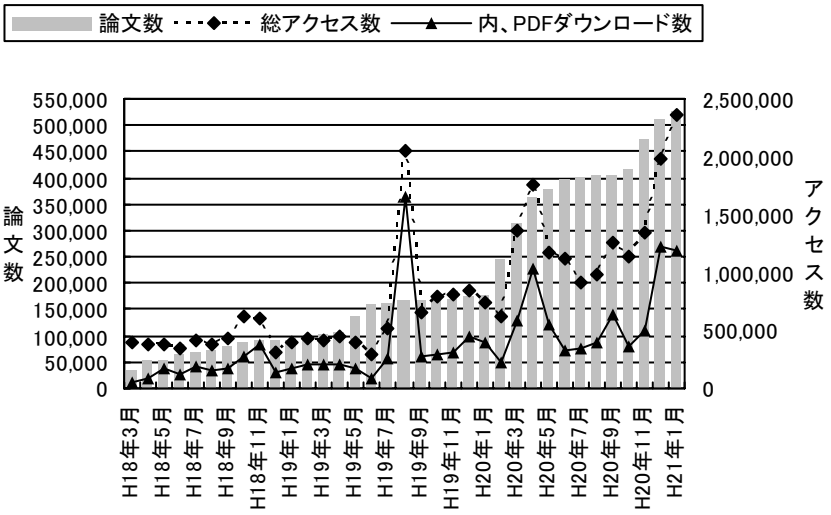
Journal@rchive：
重要な学術雑誌を過去にさかのぼって創刊号から電子化
平成 21 年度「電子アーカイブ対象候補誌」を募集開始！

科学技術振興機構（JST）では、国内の学術誌の国際発信力の強化と重要な知的資産の保存などを目的に、特に重要な過去の紙媒体の論文を創刊号から電子化しアーカイブサイト「Journal@rchive（ジャーナルアーカイブ）」にて全文公開する電子アーカイブ事業を平成 17 年度から行っています。

対象誌の選定は、応募された候補誌の中から日本学術会議や関連機関の協力を得て組織した科学技術論文発信・流通促進事業推進委員会において選定されます。これまで 1877 年（明治 10 年）創刊の雑誌をはじめ、平成 17 年度 74 誌、平成 18 年度 65 誌、平成 19 年度 58 誌、平成 20 年度 181 誌が選定されています。



Journal@rchive 国別アクセス状況（H20 書誌ページ）



Journal@rchive 登載論文数と月間アクセス数の推移

Journal@rchive ホームページ(http://www.journalarchive.jst.go.jp/)には、平成 20 年度までに選定された学術誌から、平成 21 年 2 月現在で、55 万件以上の論文が既に公開されています。ぜひ一度、ご覧ください。

この度、平成 21 年度対象候補誌の募集（約 120 誌程度）を行います。
学術誌の電子アーカイブ化を希望される国内の学協会様へは、電子アーカイブ事業参加方法ガイドブックを送付いたしますので、電子アーカイブ担当メールアドレス（jarchive@jst.go.jp）宛に学協会名、ご担当者名、郵便番号、住所、電話番号をご連絡願います。

募集期間は、平成 21 年 2 月 23 日～6 月 30 日です。

本件についてのお問い合わせ先

独立行政法人　科学技術振興機構
研究基盤情報部電子ジャーナル課　電子アーカイブ担当
電話：03-5214-8837
メールアドレス：jarchive@jst.go.jp

J-STAGE 登載基準について

J-STAGE はこれまで、論文を対象として登載するようお願いして参りましたが、このたび広告を除く全ての記事について登載（公開）が可能となるよう基準の見直しを図りました。新基準は平成 21 年 1 月より新たに発行される号から適用されます。ただし、過去分（既に公開済みの号）への追加はシステム的な制約から当面除かせていただきます。これは昨年、NII-ELS との重複回避のため J-STAGE に登載したカレント号については今後、NII-ELS には登載されなくなったことから、会報等論文以外の記事が J-STAGE、NII-ELS ともに公開されなくなることに対する措置として実施することとなったものです。以下、その内容を一覧に示します。

登載記事例

項番	種別名	査読有無	例	登載
(1)	論文	査読付き	研究論文、短報、総説、コメント、エラータ、技術報告、実施報告、症例、講演記録	◎
		査読なし	研究・技術報告、解説、講演・学会記録、ガイドライン・規定・規制、教育用テキスト	○
			製品紹介、技術紹介	○
(2)	一般記事		巻頭言、論説、論壇、対談・座談会、書評、報道、読者投稿、読み物、訃報・追悼、人物・機関紹介、正誤表	○
(3)	文芸記事		小説、随筆、詩歌、漫画	△
(4)	写真等		絵画、写真、図版、イラスト、動画、音楽、楽譜	△
(5)	編集関連記事		編集委員・査読者名簿（masthead)、購読要領、投稿規程・執筆要領	○
(6)	二次情報記事		大会プログラム、大会予稿集、大会抄録集、その他抄録集、ニュース集、その他短い紹介記事を集めたもの	△ *1
(7)	学会記事		会合記録、会告、開催案内	△ *1
(8)	目次・索引		号毎の目次・索引、巻毎の総目次、総索引	△
(9)	広告			×

登載記事の種類（◎：必須、○：推奨、△：任意、×：登載せず）　*1 集合記事とする

J-STAGE セミナー開催のお知らせ

来る 3 月 23 日（月）13:45～、ベルサール九段（東京・九段下）にて、学協会様を対象として、J-STAGE セミナーを開催いたします。セミナーでは、トムソン・ロイター社の宮入暢子様を講師としてインパクト・ファクターに関して講義をしていただきます。また、J-STAGE 利用学会様より事例紹介として講演をいただく予定です。

編集後記

♪　このほど新たに J-STAGE 担当となりました。さらによりよいシステムに成長するよう、J-STAGE の充実をめざし頑張ります。よろしくお願いいたします。（た）

♪　1 月より電子アーカイブ担当になりました。学協会様のジャーナルを全世界に向けて発信するこの仕事に誇りと自覚を持って取り組ませていただきます。よろしくお願いします！（よ）

J-STAGE ニュース Ｎｏ．19　2009 年 3 月 9 日

編集　独立行政法人　科学技術振興機構
研究基盤情報部　電子ジャーナル課
発行人　研究基盤情報部長　大倉　克美
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
電話　03-5214-8837（ダイヤルイン）
E-MAIL　contact@jstage.jst.go.jp

http://www.jstage.jst.go.jp/

J-STAGE および J-STAGE ニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。 JST 研究基盤情報部　電子ジャーナル課（contact@jstage.jst.go.jp）